

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立東唐津小学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	〇学力向上に関しては、一定の成果は出ているものの、「読むこと」に課題があった。「読むこと」は、全ての学習の基礎となるので、次年度に向けて、読書習慣の確立、授業の工夫・改善、家庭との連携等の取り組みを行っていく必要がある。志を高める教育や心の教育、健康・体づくりについては、児童の主体的な取り組みを通して、児童自らが向上させたいという意欲を高める工夫をしていく。次年度は、職員減となり校務の多忙化が予想される。新教育課程や校務分掌を工夫し、保護者・地域との連携・協力を得ながら、全職員の協働体制により児童一人一人に寄り添った指導体制を確立していく必要がある。また、職員の働き方改革についても本年度同様定時退勤を目標とする。
------------------	--

2 学校教育目標	みんなと確かに伸びる子どもの育成 ひびきあうあいさつ（体力・健康・生活の向上）    がんばる勉強・読書（学力の向上）    しっかり仕事（生き方・キャリア教育の推進）    コミュニケーション（地域連携・仲間づくりの推進）
----------	---

3 本年度の重点目標	①児童が主体的に学習や生活、学校行事等に関わる組織づくりと手立てを工夫し、児童の「知・徳・体」の向上を目指す。 ②「ひがしっ子」の合言葉のもと、児童・職員・保護者・地域が目標を共有し、連携を深めながら、児童の「知・徳・体」の向上を図る。 ③キャリア教育推進のための手立てを確立し、児童の「志」の確立と自己有用感の向上を図る。    ④業務改善・教職員の働き方改革による、ゆとりある教育活動の推進
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	主な担当者
---------------	------	--------	-------

(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上 (がんばる勉強・読書)	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・学期ごとに校内学力向上研修会を行い、マイプランの計画・振り返りを行う。	C	・マイプランの成果指標を再確認する。 ・校内研の授業実践と授業研究会を行い学力向上に一層努める。	B	・マイプランの成果指標を達成した教師が80%。	B	・先生方が自己目標に向かって努力をしていることがわかる。 ・校舎内の掲示物等にも先生方の努力がうかがえる。	教務
	○児童の主体的な学び	○児童が、自分の考えを表出する機会を一日に一回以上設定できる教師が80%以上	・児童が主体的に考えを表出することができるよう、全職員で国語科の校内研修を深める。	A	・10月に実施したアンケート調査で、肯定的に回答した児童が、93.3%。 ・10月に実施したアンケート調査で、肯定的に回答した教師が、100%。	A	・2月に実施したアンケート調査で、肯定的に回答した児童が、93.3%。 ・2月に実施したアンケート調査で、肯定的に回答した教師が、100%。	A	・今後も少人数の特性を生かして引き続き児童の主体性を持った教育を願いたい。 ・合言葉「ひがしっ子」を掲げ児童に役割をもたせ、学力向上にもつながりつつあると思う。	井上
●心の教育 (コミュニケーション)	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童80%以上	・道徳や人権・同和教育の教材研修を長期休業中に協働して行い、授業実践を深める。	B	・今後、ふれあい道徳を実施するクラスがある。 ・人権・同和教育担当を中心に実践を行っている。	A	・2月に実施したアンケート調査で、一人ひとりの子どもが大事にされていると肯定的に回答した児童が、97.8%。	A	・子どもの時に他人を思いやる心を育む教育は重要。穏やかな気持ちとなる指導を願う。 ・自分たちが大事にされていると肯定した児童が多いことが素晴らしい。	吉田
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対処等)について組織的対応ができていると回答した教師80%以上	・月1回のアンケートを実施し、アンケート内容を管理職が共有し、早期発見・早期対応に組織で取り組む。	B	・いじめ防止等について組織的対応ができていると回答した教師が、100%。 ・毎月アンケートを実施し、結果を全ての教師で共有している。 いじめを1件認知し、その後、解消している。	B	・いじめ防止等について組織的対応ができていると回答した教師が、100%。 ・学校生活アンケートを2月に実施し、いじめ認知5件。その他にもいじめを1件認知し、全職員で対応している。	B	・小さな問題のうちに早期対応されているのでよかった。 ・いじめを認知した後の対応は、全員で組織的に対応できていると感じる。	松本
●健康・体づくり (ひびきあうあいさつ)	①「運動習慣の改善や定着化」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒80%以上	・朝ラン5分、昼休み35分、放課後20分合計60分以上の運動を呼び掛ける。	B	・10月に実施したアンケート調査で、肯定的に回答した児童が、73.3%。 ・10月に実施したアンケート調査で、肯定的に回答した教師が、100%。 ・朝ラン等への意欲を喚起する工夫を行う。	B	・2月に実施したアンケート調査で、肯定的に回答した児童が、77.8%。 ・2月に実施したアンケート調査で、肯定的に回答した教師が、100%。 ・朝ラン等への意欲が高まっている。	B	・子どもは、得手、不得手があります。地道にご指導願います。 ・運動が苦手な子どもがいるが、成長期の体づくりのため「朝ラン」の指導を粘り強く指導をお願いしたい。	福島
	②「望ましい生活習慣の形成」	○アンケートにおいて自らすすんであいさつや返事をして肯定的に回答をした児童80%以上	・「おはよう挨拶隊」を児童から募り、自主的に挨拶運動をしたりあいさつや返事の指導を繰り返し行い、児童のあいさつや返事が、気持ちのよい学校環境づくりに貢献していることを実感させる。	A	・10月に実施したアンケート調査で、肯定的に回答した児童が、86.7%。 ・10月に実施したアンケート調査で、肯定的に回答した保護者が、97.1%。	A	・2月に実施したアンケート調査で、肯定的に回答した児童が、91.1%。 ・10月に実施したアンケート調査で、肯定的に回答した保護者が、93.5%。	A	・「おはようあいさつ隊」等、児童が自ら参加して生活習慣が身に付く工夫がされている。 ・学校内ではよくできていると思うが、地域では概ね達成程度と感じます。	梶山
●業務改善・教職員の働き方改革の推進 (しっかり仕事)	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の上限を遵守する。	・時間外勤務の把握と定時退勤日を週2回の設定。	B	・定時退勤日を週2回設定しているが、一部の職員が残って仕事をしている。今後曜日を再検討して定時退勤の完全実施を目指す。	A	・定時退勤日を週2回設定し、12月以降の時間外勤務時間の平均が20時間未満となった。	A	・小規模校で、職員も少ないが、効率的な学校運営に努めてあると思います。 ・時間外勤務時間の平均が20時間未満であるのは、業務のスリム化や効率化に対する意識が高いと感じる。	教頭
	○業務の効率化と取組厳選	○会議資料のペーパーレス化と取組減5項目	・情報共有により、効率的な業務の推進と思いついた取組の削減を行う。	B	・会議フォルダーを活用し、資料等のペーパーレス化を徹底する。 ・取組減4項目(配布物、作品募集、欠席者の連絡、地区懇談会)達成。	B	・会議フォルダーを活用し、資料等のペーパーレス化を徹底する。 ・取組減1項目(懇親会・慰労会)達成。	B	・業務の優先順位を定めて行うことが必要だと思えます。	教頭

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
◎「志」を高める教育 (しっかり仕事)	◎児童が自らの夢や目標を意識し、日々の活動を自分の糧とする。	○夢や目標をもって、学習や行事に取り組めた児童85%以上	・学習や行事ごとに、めあての確認と振り返りを行い児童が自分事として取り組むことができるようにする。	B	・10月に実施したアンケート調査で、肯定的に回答した児童が、86.7%。 ・10月に実施したアンケート調査で、肯定的に回答した保護者が、61.8%。 ・家庭と協働したキャリア教育を推進する。	B	・2月に実施したアンケート調査で、肯定的に回答した児童が、88.9%。 ・2月に実施したアンケート調査で、肯定的に回答した保護者が、77.4%。 ・家庭と協働したキャリア教育の一層推進する。	B	・低学年では夢や目標を意識することは難しいと思うが、高学年の活動を見たり一緒に活動したりすることで志を高めていると思う。 ・キャリア教育について保護者への説明が今後必要だと思える。	校長
○地域連携 (コミュニケーション)	○交流活動への積極的な参加	○学年ごとに実施する交流活動にすすんで行うことができた児童80%以上	・学年ごとに、交流活動のめあての確認と振り返りを行い児童が意欲的に取り組むことができるようにする。	B	・10月に実施したアンケート調査で、肯定的に回答した児童が、82.2%。 ・地域と協働実施する行事での交流を活性化し手立ての工夫を行う。	B	・2月に実施したアンケート調査で、肯定的に回答した児童が、75.6%。 ・校内で交流できる機会(掃除ボランティア、読み聞かせ)を設けた。	B	・コロナ禍でも可能な範囲で交流を計画されている。 ・保護者は肯定的な意見が多いので、引き続き重点項目としてお願いしたい。	教頭

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	①児童の主体的な学びの実現のために様々な手立てを工夫した結果、児童が主体的に考えを表出できるようになり、学力が着実に向上している。今後、児童の「書く力」を一層向上させるために、校内研での共通した取組を一層充実させる。 ②「ひがしっ子」の合言葉が、児童・職員・保護者に浸透し、連携して児童の運動習慣や生活習慣を向上させている。今後、「ひがしっ子」の合言葉が地域に一層浸透するよう、情報発信に努める。 ③キャリア教育推進のためにキャリアパスポートを継続的に活用し、自己有用感が高まり、夢や目標に対する児童の意識は向上している。今後、家庭と協働したキャリア教育の工夫や保護者への説明の充実に努める。 ④業務改善・教職員の働き方改革への職員の意識が変革しつつある。今後、生み出された時間の有効活用方法を探り、職員の魅力を一層伸長する。
--------------------	--